

# 運営支援ボランティア

三重県から最初に現地入りした先遣隊より、【みえ発！ボラパック】の第1便～第4便まで、山田町災害ボランティアセンターの立ち上げ・運営に関わる支援活動を行いました。山田町社協、長野県・静岡県社協からのブロック派遣の皆さんと共に、現地で不足していた人員をカバーしました。山田町災害ボランティアセンターの運営は、主に6つの部署に分かれて作業を分担し、様々な改良を繰り返しながら形づくられました。また5便以降も、人員不足を補うため、配車班のみ継続で作業を担当しました。



4月下旬に山田町に入り活動させて頂きました。そこで感じたのはみえボラのメンバーも、日本中から活動に来る人も、皆大変な思いをしている人の為に何かしたいという熱い“想い”を持って集まってきている事実でした。私はその想いに希望を貰い、考え方そのものを変えて頂いた気がします。昨今、人と人の繋がりが失われている、他人の痛みがわからないという内容の新聞記事を目にしますが、この国には誰かの為に行動できる人、思いやりや情を失っていない人が沢山居るという確信が、私の胸に宿りました。私はこの想いを周囲の人に伝えていきたいと思っています。



先遣隊第4次～ボラパック第2便  
青直樹さん

事前説明会でセンター長の「ガレキは財産。ゴミは思い出。大切に。」を胸に刻み、夜明けの高速最終インターから雪降る山を幾つか越え、やっと山田町。緑がない。人がいない。車や堤防までもが360°ひっくり返り、時間が止まったままの現実に、1便は絶句した。『何を「頑張れ」と言うの？ 早く手伝いに来て！』と叫びそう。模索しながら、毎夜ミーティングで熱い思いを語り合う。翌朝、全国から応援に来たボラを受け入れ“人って温かくて強いんだ”と感じ、また気力がわいた。



第1便 谷川順子さん

5月7日早朝山田町に到着。VC横の桜は満開、しかし車中から町並みを見て来た為か心は大きなダメージで打ちのめされていた。運営業務と聞かされたけれど、具体内容は白紙。本来熟練者が担う、人と人のコーディネート。限られた時間の中、教える側、教えられる側も必死に取り組むものの十分理解出来る迄に至らなかった。それでも現実には止まる事なく動いている。「みえの責任」は重い。混乱、困惑の中で戦が始まった。このドタバタに歯止めをかけることも3便のもう一つの役割だ！ 前便までに残したものをベースにマニュアル作成、定例会議の制定、運営業務の改善。全員が夜を徹した苦勞の分だけ、「礎」を創った達成感と、「絆」を御褒美に三重への帰路に。



第3・11・28便 岡田義昭さん

